



未利用魚の
魅力を伝える
商品を開発



食にまつわる
SDGsイベントを実施



都市型洪水を緩和する
「レインガーデン」

おかやまSDGs ACTION

SDGs 17の目標



*The content of this publication has not been approved by the United Nations and does not reflect the views of the United Nations or its officials or Member States.

オリジナル

SDGsカードゲームが完成



「SDGs先進県」である岡山。

自治体や学校、企業などさまざまなプレイヤーがSDGsに取り組み、2030年を目標に動きが加速しています。さまざまなプレイヤーが「地域のために、そして世界のために」実際にアクションを起こしているなかで、注目を集める取り組みについてご紹介します。

アップサイクル ジーンズを



アートを通じて、 共生社会の 実現を目指す





「レインガーデン」の植物は、大森社長が一本一本選んで植えたもの。この地の気候に馴染み、元気に生い茂っている。



「レインガーデン」一角に敷き詰められたレンガには、ロータス加工が施され、穴が開けられているため水が浸透しやすい。

住

live

雨水を循環し、都市型洪水の緩和を図る。

「ガーデンは科学であり、デザインは環境に優しいものでなくてはならない」を信条に、持続可能な庭を造り続けている「株式会社ワイズスケープ」。その庭づくりの基本となっているのは、同社が庭の実験工房として開設した「ワイズガーデン岡山」に見られる「レインガーデン」というシステムだ。バイオレメディエーション（生物浄化）といわれる湿地帯の植物と微生物で有害物質を地中で浄化（濾過）して、貯留・利用・浸透させることで、地下水を増やすという仕組み。「もともととは、庭に湿地を設けて雨水を浄化し、地中に浸透させるという考えでした。しかし現在は、雨水タンクやグリーンルーフ（草屋根）、グリーンウォール（壁面緑化）を取り入れるとともに、庭木や草花の力も借りて、雨水を浄化し、地中に浸透させています」と社長の大森茂昭さんは話す。また、降雨時にはグリーンルーフがダム役割を果たし、湿地や土の地面はアスファルトやコンクリートと違って水が浸透しやすく保水効果もあるため、下水への急激な雨水流入を防ぎ、都市型洪水緩和の一助ともなっている。「この植物と水、

土の有機的なシステムを持続可能なものにするために重要なのは、多少はつたらかしにしても枯れることなく育つような、その地の気候風土にあった植物を植えること。美しさや珍しさに惹かれて海外の植物を植えると、すぐに枯れたり、メンテナンス費用が大きくなる可能性もあります。そう話す大森社長は、岡山近辺に自生している植物のなかからそれぞれ庭にふさわしいものを選定しているという。「レインガーデン」が果たす役割は、水の循環だけではない。タンクに集めた雨水をかん水に利用することで上水道の使用を節約でき、グリーンルーフやグリーンウォールの土の断熱効果や、植物の蒸散作用による冷却効果で、夏の屋内温度上昇を緩和してくれる。SDGsのさまざまなゴールを目指す「レインガーデン」。カフェも用意されているので、自身の目で確かめてみてはいかがでしょうか。



2003年にオープンした「レインガーデン」の受付棟に配されたグリーンルーフ。雨水は屋根の土中に浸透する間に濾過され、酸性も中和された後に地中へと浸透し、地下水となる。目指すゴールは、「14.海の豊かさを守ろう」と「15.陸の豊かさを守ろう」。



ワイズガーデン岡山

岡山市南区福田735-2
☎086-259-5022



より詳しい情報は
公式HPから



(右)「レインガーデン」にある「会員制都市型農園」は、農業不使用。(左)園内にあるカフェのある日の「ランチセット」(ドリンク、デザート付き)2200円。都市型農園で育てた野菜を中心とする料理を味わえる。3日前までに予約を。



食
eat

骨ごとすりつぶした豊かな食感と旨みが特長の「ひらじゃこ天」(3枚入り)1080円。創業より手作りの製法にこだわる。

「ひらの味、小骨がなければ献上魚」と言われるくらい、旨みとコクが強いヒラ。「日本各地でヒラは獲れますが、食べる文化があるのは、ほぼ岡山のみ。だが小骨が多く、骨切りという技法が必要となるゆえ、岡山でも近年ヒラを食べる機会が減っていったんです」と語るのは、岡山市にあるかまぼこや天ぶらの老舗「長谷井商店」の代表・中島俊子さん。「未利用魚を流通させることで、岡山の魚食文化を守りたい」という思いから、ヒラの身を100パーセント使ったじゃこ天風さつま揚げ「ひらじゃこ天」を開発。また未利用魚の認知拡大に力を入れるべく、二〇一九年には岡山水産物流通促進協議会を立ち上げ、地元小・中・高校での勉強会や「海と日本PROJECT in 岡山」にも参加。そのイベントに参加した小学生と一緒に考えた「前浜もんおにぎり」も開発した。「練り製品は、日本の食文化。その継承のために、岡山の若い世代に魚食文化を伝えていきたい」と活動はさらに広がっていきそうだ。

「ひらじゃこ天」をはじめ、未利用魚を活用し、岡山の魚食文化を守る。



1.未利用魚などについて学ぶパンフレットを作成。2.地元小・中・高校で「未利用魚」に関する勉強会を実施。3.「はせいのおそうざい 惣」で販売する「前浜もんおにぎり」。



はせいしょうてん
長谷井商店

岡山市北区二日市町232
☎086-225-0691



より詳しい情報はHPから



衣
wear

家族の思い出がこもったジーンズや古着を、オーダーメイドでバッグや帽子など今使える商品にアップサイクルする。

デニムや古着を大切な思い出とともにアップサイクル。

岡山県産デニムの古着や端材を有効活用し、価値あるオリジナル商品へのアップサイクルに取り組む工房。代表の平松未由季さんが事業をはじめたきっかけは、友人からの「どうしても手放せない父の遺品の着物をバッグにしてほしい」との依頼だった。友人の思いを込めて作りあげたエコバッグは、県の「エコバイバッグコンテスト」で最優秀SDGs賞を受賞。その時改めて「自分の活動がSDGsにつながっていたんだ」と気付いたという。寄せられるのは、気に入っていたのに履けなくなったジーンズや、家族の衣類といったその人にとって思い出のある生地。活動に賛同する井原市内のデニムメーカーから譲り受けた端切れなども組み合わせ、バッグや日傘、帽子などさまざまな商品に生まれ変わらせている。「制作過程で出る端切れも捨てることはありません。子ども向けのワークショップを中心に活用していて、SDGsをもっと身近に感じていただければ嬉しいです」と語ってくれた。



1.特殊なデニム用ミシンで製作する平松さん。オーダーメイドの間合せは随時受け。2.人気の日傘は希少なホワイトデニムを使用。3.端切れ布のワークショップ。



アイイロヌーボー
Upcycling I-iro Nubou (藍色縫房)

岡山市中区海吉1857-8
☎090-6435-3570
[Instagram]@upcycling_i_iro_nubou



より詳しい情報はInstagramから

普通科一年生が、瀬戸内市、岡山県環境保全事業団と制作した教育ツールだ。カードには「市の抱える問題」「その対策」「策を講じることで生じる新たな問題」が記された「トリードオフカード」と、問題解決のヒントとなる技術や地域資源が記された「リソースカード」の二種類がある。プレイヤーたちは手札にあるリソースカードをもとに問題の解決策を提案する。模範解答はなく、発想力が鍛えられるゲームだ。このカードゲームは、二〇二一年、高校生が市役所職員へヒアリングを行ない、地域課題の把握と明確化をしたところから制作活動が始まった。カード完成後には市内八つの小学校で出前授業を実施。高校生がファシリテーターを担当し、小学生にも伝わるよう工夫を凝らして地域課題を解説した。「人前で話すことに抵抗があったが出前授業を経て意識が変わった」「ひとつの問題に対して多様な解決策を考えられるようになった」と高校生たちは誇らしげに答えてくれた。現在、大学や企業、福祉施設への出前授業も実施し、集約した多数の解決策は市へ提言され、アイデアの実現に向けて準備が進んでいる。高校生と自治体が協働して制作したSDGsカードゲームは、日本初の試みとして地域教育の新しい好例となった。二〇二三年には、この取り組みを紹介した動画が環境省主催「環境教育・ESD実践動画100選」の認定を受けている。また、二〇二四年は「おかもやまSDGsフェア」に出展し、地域外に対しても積極的に情報発信を行なった。瀬戸内市は、SDGsをより身近に感じてもらう活動を通し、持続可能な地域づくりを進めていく。

地域の持続可能な発展を目指し、SDGsを推進するさまざまな活動を展開している瀬戸内市。教育機関や企業と連携し、地域課題に取り組む教育プログラムやイベントを実施することで、社会に貢献できる人材を育成中だ。なかでも、「瀬戸内市オリジナルSDGsカードゲーム」は先進的な取り組みとして全国の地方自治体から注目を集めている。このカードゲームは市内唯一の高校である岡山県立邑久高等学校の

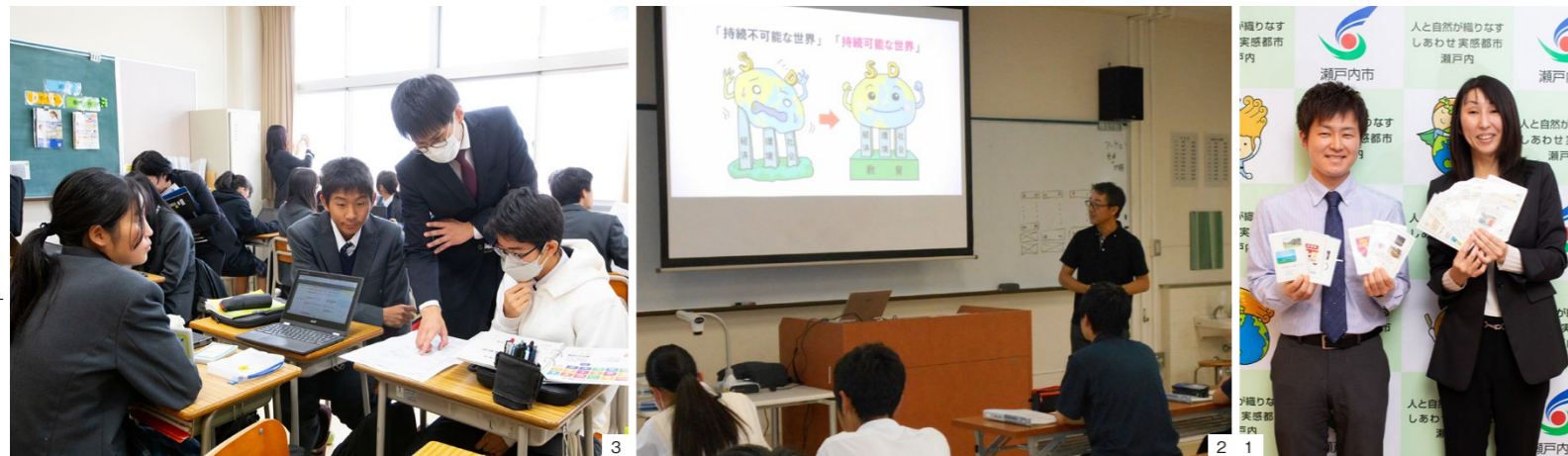
せとうちし
瀬戸内市

おかやまSDGs ACTION

- 地域課題の明確化
- 持続可能なまちづくり
- 将来の担い手育成



より詳しい情報は
公式HPから



1.総合政策部企画振興課・課長補佐の仁科佳菜子さん(右)と主事の鈴木智貴さん(左)。2.カードゲーム制作を全面的にサポートした、岡山県環境保全事業団の柏原拓史さん。3.カードは年に一度更新。そのたびに、地域課題を把握し直し、解決策を新たに考える。4.カードゲームは、金沢工業大学が手がけたSDGsアクションカードゲーム「X(クロス)」がベースになっている。5.教える側を経験することで地域課題に対する知識がより深まる。



官民学の連携で創るSDGsカードゲームは
楽しみながら学ぶ、未来への一歩。



地域課題へのアプローチとして邑久高校生と制作した「瀬戸内市オリジナルSDGsカードゲーム」は、地域への愛着を芽生えさせてくれるツールでもある。

TOPICS

地方自治体初の統合報告書が瀬戸内市の羅針盤となる。

瀬戸内市は、同市についての情報を「統合報告書」という形で広く公表している。これは、地方自治体で初の試み。報告書内では、市の経済状況だけでなく、環境保護、社会貢献活動などを総合的に分析し、将来の戦略や施策についても言及。市民やステークホルダーとのコミュニケーションを強化し市政の透明性を高める目的もある。持続可能な地域社会の実現に向けた重要な情報源として、市内の図書館や公式HPなどで閲覧可能だ。



[問合せ]
瀬戸内市 企画振興課 SDGs推進室
瀬戸内市邑久町尾張300-1
☎0869-22-1113

ナガセヴィータ株式会社(旧社名:林原)

おかやま SDGs ACTION

- 健康寿命延伸への貢献
- 安定的な食料確保
- 社員エンゲージメントの向上
- 環境負荷の低減



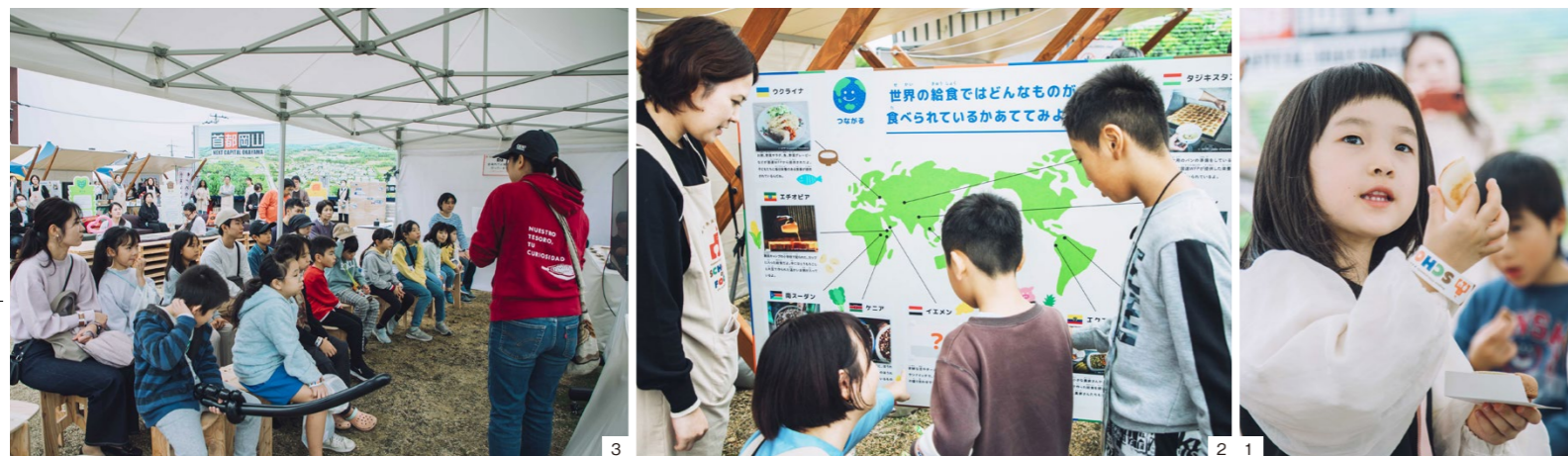
より詳しい情報は
公式HPから

二〇二四年十一月、次世代を担う子どもたちに向けた共創プロジェクト「SCHOOL OF FOOD」が岡山市で開催された。「食」を楽しく学ぶをコンセプトに「つながる」「育てる」「食べる」「運ぶ」の四つのテーマに分かれて食育プログラムが行なわれた。「育てる」の授業では、チョコレート原料・カカオ豆を触って香りをかいだ子から「酸っぱい匂いがする!」と声が。手間暇かかる生産方法を教わり、

出来上がったチョコレートを味わった。「つながる」のブースでは、世界の給食や学校給食支援活動への理解を深め、ひとり一人が世界の飢餓問題に貢献できることを実感。日々の行動が、よりよい未来の実現につながることに気づいた子どもたちもいたようだ。

イベントを開催したのは、二〇二四年四月に「林原」から社名を変更した「ナガセヴィータ(Nagase Vita)」。新社名の「Vita」は、事業テーマである「生命、暮らし」を表すラテン語「Vita」に、「i」を加えた造語。「ii」は生命が寄り添う姿を表し、人と自然が共生するサステナブルな未来を共創したいという思いを込めている。そして同時に策定したのが、会社の存在意義を表すパーパス「生命に寄り添い、人と地球の幸せを支える」である。そこには、「長く培ってきたバイオ技術を生かしてさまざまな社会課題の解決に貢献したい」という志を反映。健やかに暮らすための素材や技術を提供する「健康寿命延伸への貢献」をはじめ、食品ロス低減と食資源の生産性向上に努める「安定的な食料確保」、多種多様な社員が能力を発揮できる職場づくりを目指す「社員エンゲージメントの向上」、CO₂排出やエネルギー消費の削減を推進する「環境負荷の低減」の四つのマテリアリティ(重要課題)を定めて、サステナビリティ活動に真摯に取り組んできた。

「食」にまつわる話題を知ること、社会が直面する食料問題や環境負荷にも意識を向けるきっかけになれば嬉しいです」と同社の宗友部長。人と自然が真に共生する未来を目指し、挑戦を続ける同社の取り組みに注目したい。



1.知って、触れて、食べる体験をする子どもたち。 2.「ナガセヴィータ」のブースで世界の給食を当てるクイズを実施。 3.共創先「カカオハンターズ」の授業では、チョコレートの原料・カカオ豆の原産地や生産者の思いなどを聞いた。 4. 共創先「omoや545」の授業でアレルゲンを知り、誰もが安心しておいしく食べられることの大切さを学んだ。 5. 共創先「岡田商運」のブースでは、食品などを運ぶ流通過程の展示やトラック運転席での記念撮影も。



「ナガセヴィータまつり」の会場の一角で行なわれた「SCHOOL OF FOOD」。食にまつわるテーマごとに、子どもたちが楽しく遊びながら学べる場を提供していた。

TOPICS

さまざまな社会貢献活動でよりよい社会の実現に貢献。

「ナガセヴィータ」(旧社名:林原)は事業活動と社会貢献活動の両輪で、よりよい社会の実現を目指している。林原美術館の運営支援や産官連携の健康寿命延伸イベント「岡山ウェルネス」の開催に加え、地域のスポーツ・文化の振興を願い、ファジアーノ岡山や岡山フィルハーモニック管弦楽団に協賛。また、「WFP国際連合世界食糧計画」や災害復興などへも支援を行なっている。



【問合せ】
ナガセヴィータ株式会社(旧社名:林原)
岡山市北区下石井1-1-3 日本生命岡山
第二ビル新館 ☎086-224-4311

多機能型事業所 株式会社ありがとうファーム

おかやまSDGs ACTION

- 共生社会の実現
- 障がい者の自立支援
- ソーシャルイノベーション
- ひとり親家庭、生活困窮家庭の支援



より詳しい情報は
公式HPから

表町商店街を拠点に活動を続ける「ありがとうファーム」。さまざまなハンディを持つ人に、一定の支援と職場を提供する障害福祉事業所で、利用者である障がい者を、ここでは「メンバー」と呼ぶ。二〇一四年に創業した木庭寛樹氏が唱えた「生き生きと堂々と、人生を生きる」という企業理念ゆえの呼称で、主役は彼ら彼女ら。今、個々の力が、福祉の世界に大きな変革を生んでいる。

メンバーの仕事は、サービスとアートの二部門。前者は、販売や飲食などの店舗が主軸。後者は、絵画制作やものづくりワークショップといった幅広い活動を続けている。さまざまなメンバーが活躍するなかで、近年印象的なのが二〇二〇年に始まった「こども商店街」だ。「障がいがあっても、自分たちの仕事を通じて、自分たちより困っている人を勇気づけよう、社会に貢献しよう」と、県内のひとり親家庭や生活困窮家庭を応援するためにスタート。「子どもに嬉しい思い出を作ってもらえない」という悩みを解決すべく、表町商店街で縁日気分が味わえるイベントを実施。招待された家庭は屋台やワークショップが無料でゆしめ、これまで延べ二三〇世帯、六九〇名が参加している。さらにこの活動に共感する企業や学校が当日の運営面で協力することにより、年々規模が拡大。「恩送りの輪」がどんどん広がっている。

アート部門において今注目を集めているのが、「おかやま駅チカARTWALL」での展示。二〇二六年に向けて改修が進む岡山一番街で、仮囲い中の全長約七五メートルの両壁面を活用し、壁面をキャンバスに見立て、地域にゆかりのあるアート作品を展示している。その第一弾として、二月三日「国際障害者デー」にちなみ、メンバーのアートが展示され、道行く人の目を愉しませている。これだけにとどまらず、アートを有料で一定期間貸し出すレンタルアートは広がりを見せ、年々レンタル数は増加傾向にあるという。「知ることは、障がいを無くす」。木庭氏が掲げた理念をもとに、真の共生社会の実現に向けて着実に歩みを進めている。



1.2.4.毎年恒例となった「こども商店街」。地元企業から提供を受けた廃材を使うハブラボでは、真っ白なキツネのお面にデコレーションを施すワークショップを行なった。

3.活動原資は、「ありがとうファーム」の飲食店舗の売上の一部を利用。運営する飲食店4店舗の共通券付きクーポン制作し、間接的に利用客が無理なく参加できる仕組みを構築。

5.「岡山ダイハツ」とコラボした「おえかきカー」。本物のクルマに絵を描けるとあって大人気。また「岡山トヨタ」による缶バッジワークショップも好評だった。



「知ることは、障がいを無くす。」
真の共生社会創造を目指して。

「おかやま駅チカ ARTWALL」の展示期間は、2025年2月28日(金)まで。設置場所は、今後の工事の進捗により位置が変更する可能性あり。

TOPICS ザ・グリーンハーツが、「大阪・関西万博」に出演決定!

「ありがとうファーム」の有志で活動するロックバンド「ザ・グリーンハーツ」。始まりは2015年、創業者・木庭氏が「みんなの心をひとつにしたい」とゴスペルを歌うチームを提案したことがきっかけ。「歌を通して愛と勇気と感動を届ける」を掲げ、ソウルフルな歌声が評判を呼び、今では県内各地から声がかかるように。「2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)」のステージで歌声が披露されることが決定し、今後の活躍から目が離せない。



【問合せ】
多機能型事業所
株式会社ありがとうファーム
岡山市北区表町3-7-5 ☎086-953-4446